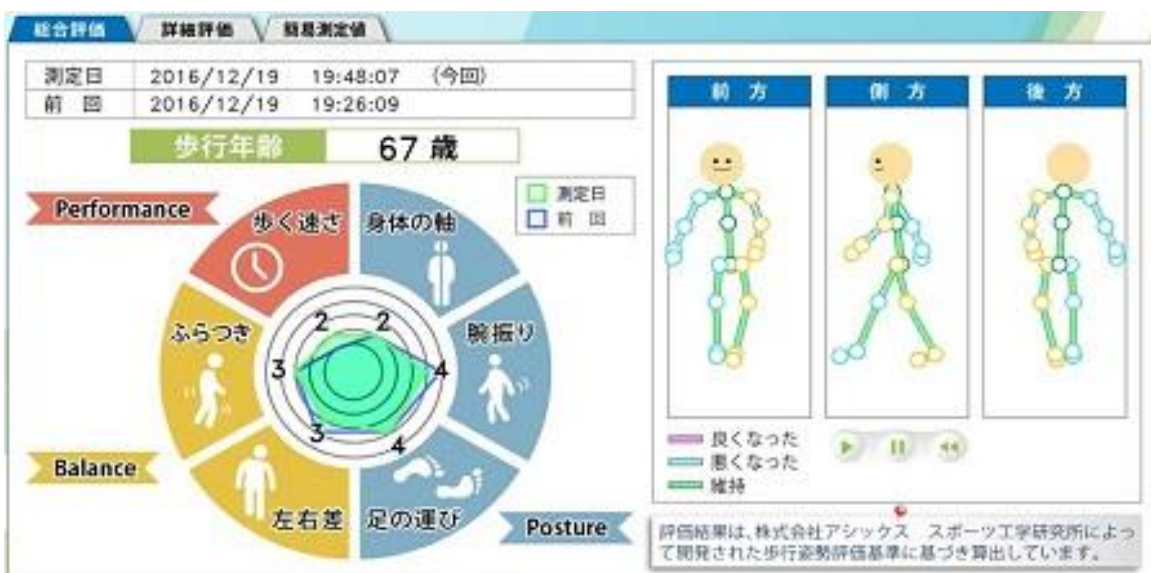


「アシックス、新分野へ参入」

～ 競技だけじゃない、医療・福祉への参入～

アシックスとリハビリ、と聞くと、あまり関連がないように思えます。しかし、これまで多くのスポーツ選手のために新製品の開発を進めてきたアシックスには「歩行」についての多くの研究成果の蓄積があります。その蓄積をいかして、「歩く姿勢を数値化する」システムの開発を NEC ソリューションイノベータと共に行いました。

このシステムは、3次元(3D)センサーに向かって普段通りに約6メートル歩いて、歩行速度や足の上がり具合など36項目を調べ、独自の「歩行年齢」を割り出すというものです。



このシステムを使って、例えば、高齢者が危険な歩き方をしていないか、リハビリが進んでいるかを数字で把握することができます。従来、人の動きの測定には大掛かりな機器が必要でしたが、このシステムはパソコンと3Dセンサーのみで済み、歩行者はマーカーなどを付けなくても3Dカメラの前を歩けば全身の関節角度が計測できます。

最近では、骨密度からの体内年齢や肌年齢など、実際の年齢以外の指標が健康維持や美容には欠かせないといわれています。このシステムでは、歩く、という日常動作を数値化することによって、高齢者の転倒の予防やリハビリの成果が測定できるのです。

転倒予防に段差をなくしたり手すりをつける「バリアフリー」の考え方は普及していますが、さらに根本的に「転倒しづらい歩き方」によってお年寄りの健康寿命が長くなることが期待できます。